

たくさんの詩に触れる活動を通して詩の良さや表現する面白さを味わい、詩に親しむ授業。

第3学年2組 国語科学習指導案

指導者 川上 将伍

1. 単元名 はっとしたことを詩に書こう

2. 学習材 「まど・みちお」「工藤直子」「谷川俊太郎」や他児童詩集

3. 単元について

(1) 本単元でつきたい力

本単元では、主に、小学校学習指導要領・国語〔第3学年及び第4学年〕の「書くこと」における以下の能力を身に付けさせることをねらいとしている。

B 書くこと

内容 (1) ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。

言語活動例 (2) ウ 詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。

本単元では、色々な詩に触れて、アンソロジーを編み、最後にオリジナルの詩集を創作する活動を通して、自分なりに思ったことや感じたことを表現したり、自分の考えを広げたりすることをねらいとしている。

(2) 本単元で行う言語活動

本単元では、たくさんの詩を読み、その中から自分の気に入った詩を集めてアンソロジーを編み、最後に自作の詩を添えたオリジナル詩集を作るという言語活動を行う。

第3学年の学習では、初めて俳句というものに触れ、色々な俳句を音読したり暗唱したりすることによって、季節や風情、句に込められた思いなどを考えたり、俳句独特の美しい響きを感じ取ったりする学習をしてきた。詩については、1・2学年で詩集に触れる活動を行っているが、詩という言葉に触れ、学習するのは第3学年が初めてである。そこで、まず、たくさんの詩を読ませ、詩の良さや表現の面白さなどに触れることを大切にしていきたい。その際、「まど・みちお」「工藤直子」「谷川俊太郎」らの作品や様々な児童詩集を活用していくことで子どもたちの詩に対する関心を高めていく。また、A4の紙に罫線のみを印刷した紙を詩の視写用紙として活用していくことで、子どもたちが視写しやすくする。その他にも綴じ紐を使い、お気に入りの詩を書き溜めることでお気に入りの詩が溜まっていく喜びを感じさせ意欲を高めていく。

そして、自分で選んで集めたお気に入りの詩の中からテーマを決め、テーマに応じた詩集を作っていく。たくさんの詩を読むことで、子どもたちの語彙や詩の独特な表現方法に触れる機会を増やしていきたい。それが、最後にオリジナルの詩を創作する際の手立てとなるだろう。

(3) 学習材について

「まど・みちお」、「工藤直子」、「谷川俊太郎」、らの作品については、国語の教科書に掲載されるもの

や「ぞうさん」や「やぎのゆうびんやさん」など子どもたちが一度は耳にしたことがあるような作品をつくり出している。そのような詩人の作品を読むということが子どもたちにとってとても貴重な経験であると考えられる。子どもたちが親しみやすい作品も多く、詩に対して抵抗感なく読み進めることができる学習材である。様々な詩人の作品を用意することで、児童が「こんな詩を見つけよ。」「この人の詩はどんな作品なんだろう。」と詩に対して高い関心をもつことが期待できる。また、幅広い作品を読むことで、様々な表現方法に触れる機会がある。自作の詩を作る際にその経験が有効的な手立てとなるであろう。

上記の通り、本学習材は、子どもたちが詩に親しみやすく、様々な表現方法に触れる機会を通して、詩の面白さや表現する楽しさを味わうことに適した学習材であると考えられる。

(4) 子どもの実態 (男子14名 女子16名 計30名)

本学級の児童は、4～5月に『白い花びら』の文の基本構成(前話、中話、クライマックス、後話)や中心人物のゆうたが女の子と出会い気持ちはどのように変化したかを学習した。単元の後半では、女の子とゆうたはまた会えるか、会えないかを考える学習を行った。会える、会えないに対して物語の叙述を基に自分の考えを表現できる児童は少なかった。また、朝のチャレンジタイムの時間では、テーマに応じて自分なりの考えや感じたことなどを日記に書く活動を行っている。その中で、テーマに対して自分の考えや思ったことをうまく表現できない児童が5名いる。

6月には俳句について初めて学習した。色々な俳句を音読したり、暗唱したりする活動を通して、俳句の良さや表現する面白さなどに気づくことができた。様々な作品に触れることで初めて学習することでも関心を高くもちながら学習できることが実感できた。

そこで、本単元では、たくさんの優れた詩に触れる活動を通して、詩を視写し、書き溜めていく学習を通して、詩に対する関心を高めていきたい。次に、語彙を増やしたり色々な表現方法に気付かせたりして、詩の良さや表現する面白さを実感させ、自分の考えや感じたことなどを自由に表現する楽しさを味わわせたい。

(5) 指導観

[見出す]

本単元の目標を児童に明示する。

単元の目標を知り、学習の見通しをもつことで主体的に学習する態度を引き出す。

本単元の導入では、教師作成の詩集のモデルを提示する。教師が選んだ詩の一つ一つに対する思いを語る。単元の後半に教師が作ったオリジナルの詩を読み聞かせることで、子どもたちが「自分も作ってみたい。」「おもしろそうだな。」という意欲を引き出したい。また、廊下や教室に詩を掲示することで、詩に触れる機会を多く作る。色々な詩に触れ、オリジナルの詩集を創作するという単元の見通しを子どもたちがもつことで、主体的な学びにつなげていきたい。

[自分で取り組む]

児童が主体的に取り組める環境の設定や、学習の進め方を指導する。

お気に入りの詩を視写して書き溜めさせる。

「まど・みちお」「工藤直子」「谷川俊太郎」や様々な児童詩集を用意し、たくさんの詩に触れる機会を設ける。国語科やチャレンジタイムを活用し、詩を読んでいく。その中で、自分のお気に入りの作品を見つけさせる。ミニ図書館を設置したり、廊下に詩を掲示したりするなど、子どもたちが身近に詩に触れることができる場を整えることで詩に対する関心を高めていきたい。

選んだ詩は、用紙に書き溜めさせる。用紙は、A4の紙に縦の罫線のみを入れたものを使用し、書き溜めさせていく。用紙を綴じ紐を活用してまとめていくことで、書き溜まっていく喜びを実感させることで意欲を高めていきたい。用紙は、子どもたちがいつでも使えるように学級に置いておき、進んで取り組んでいる様子を評価し、たくさんの詩を読もうとする姿を増やしていきたい。また、優れた作品に触れる機会が増えることで、自然と語彙が増えることや詩独特な表現方法に対する感覚が高まっていくことが期待できる。子どもたちが気に入った表現などを「言葉の葉」としてまとめいくことで表現方法に関する関心も高めていきたい。

[自分で取り組む]

児童が主体的に取り組める環境の設定や、学習の進め方を指導する。

テーマを決め、アンソロジーを編ませる。

詩が書き溜まってきたら、アンソロジーのテーマを決めさせる。子どもの中には、自然とテーマを設定し、それを基に詩を集め、すぐにテーマが決まる子どももいるだろう。一方で、決まることが難しい子どももいる。そこで、書き溜めた詩を読み返し、自分がより気に入ったものを絞っていくことで、テーマを見出させたい。

また、自分で作った詩を最後にオリジナル詩集に収める。多くの作品に触れることで、詩についての理解が深まっているはずである。

自分の思ったことや感じたことなどを表現するために相応しい言葉を詩の中から用いたり、自分で新たに考えたりしながら創作できるようにしたい。

[広げ深める]

児童が自分の考えを伝える場面を設定する。

友達の作品の良さについて共有させる。

オリジナル詩集が完成したら、詩集を読み合い、友達の作品の良さについて共有を図る。また、朝の会や帰りの会などを活用し、お気に入りの詩について紹介する時間を設ける。友達の考えを聞くことで、詩の良さを共有して、詩に親しもうとする姿を目指したい。

4. 単元の目標

【知識・技能】

○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。 1 (1) ア

【思考・判断・表現】

○表現の効果や工夫について理解し、工夫しながら詩を創作することができる。 2B (1) ウ

【主体的に学習に取り組む態度】

○自分のお気に入りの詩を見つけるために、多くの詩を読もうとしている。

5. 全体指導計画（7時間扱い）

時	主な学習活動	○教師の留意点 ☆評価（方法）
1	単元のゴールを知り，学習の見通しをもつ。 ・オリジナル詩集を見て，単元のゴールを知り，学習の見通しをもつ。	○モデルを提示し，本単元のゴールを伝える。 ○詩集に必要な構成要素を伝え，学習計画を話合う。 ☆単元のゴールと見通しをもち，意欲的に取り組もうとしている。（㊦発言・ノート）
2 3	詩を読む。 ・詩を多読し，自分の好きな詩を見つける。 ・詩を視写し，書き溜める。 ・詩の表現方法について共有する。	○視写する時の留意点について確認する。 ○「まど・みちお」「工藤直子」「谷川俊太郎」や児童詩集を用意し，様々な詩に触れられるようにする。 ○たくさんの詩の中からお気に入りの詩を見つけさせる。 ○お気に入りの詩を視写し書き溜めさせる。 ○詩の表現方法などに目を向けさせるようにする。 ○気に入った表現方法を共有するために言葉の葉に書かせる。 ○視写用紙を多数用意し，子どもたちが主体的に取り組めるようにする。 ○意欲的に書き溜めている子どもを賞賛する。 ☆詩を読みお気に入りの詩を見つけようとしている。（㊦発言・お気に入り帳）
4 5	テーマを決める。 ・書き留めた詩からテーマを決め，オリジナル詩集に収める詩を決める。	○視写した詩を見返しながらテーマを決めるように声をかける。 ○アンソロジーに編む詩を決めさせる。 ○テーマの決まらない子どもについては個別に支援していきながら決定していく。 ☆テーマが伝わるような詩を選んでいる。 （㊦発言・オリジナル詩集）
6 本時	オリジナル詩集を完成させる。 ・アンソロジーのテーマに合わせて詩を創作する。	○自分のテーマを意識させ詩を創作させる。 ○自分なりの詩を作るためのヒントとして「言葉の葉」やいくつかの表現技法を掲示しておく。 ○自力で書くことが難しい子どもには，教師自作のモデルを例として見せたり，教師と会話

		<p>したりしながら書き進めていく。 ☆自分なりの詩を作ることができる。</p> <p>(思)オリジナル詩集)</p>
7	<p>オリジナル詩集を読み合う。 ・完成したオリジナル詩集を読み合い, 友達の作品のよさを共有する。 ・学習の振り返りを行う。</p>	<p>○自分の作品についての思いを伝え合わせる。 ○単元全体を振り返り, 学んだことについて考えさせる。 ☆友だちの作品の良いところを見つけることができる。</p> <p>(知)発言・ノート)</p>

本時の指導（6／7）

（1） 目標 オリジナルの詩を創作することができる。 【思考力・判断力・表現力】 2B（1）ウ

（2） 展開

時配	学習活動と内容 ◎教師の発問 ・子どもの反応	○留意点 ☆評価（方法）
10	1. 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。 ◎詩を書く時に大切なことはどんなでしたか。 ・思った事, 考えた事, 感じた事を言葉で表現することです。	○迅速に学習問題について確認できるように単元計画を基に学習問題に導く。 ○単元を振り返れるように学習をしたことを掲示する。
自分のテーマに合った詩をつくろう。		
25	2. 自分なりの詩を創作する。 ◎自分なりの詩を作ってみよう。 テーマ例 ・季節の詩 ・動物の詩 ・生き物の詩 ・楽しい詩 ・鳥の詩 ・花の詩 個別指導をする手立て ○表現したいことを想起させるためにアンソロジーや自分で集めた言葉の葉を見返す。 ○アンソロジーを編んだ詩集の中から、お気に入りの作品を選び、言葉をかえて表現してもよいことを助言する。 ○個別に支援してく中で、どんな言葉を使いたいか、どんな様子を表現したいかなどを聞き助言する。	○詩を作るためにヒントになるような言葉の葉を掲示する。 言葉の葉 ・音の葉 ・たとえの葉 ・声の葉 ・リズムの葉 上記の4点において、児童が学習材から選んだ詩を書くためにヒントになるような言葉をまとめたもの。 ○自分のテーマを意識させるためにオリジナル詩集を机の上におく。 ○意欲を高めるために作品のできた児童や作っている過程においても賞賛していく。 ○作品が完成した児童については次の作品を作成することを伝える。 ☆アンソロジーに合った詩を作ることができる。
5	3. 作品を全体で共有する。 ◎どんな表現がよかったですか。 ・リズムがよくて読みやすい。 ・たとえの表現を使ってすごい。	○全体で共有するために視聴覚教材を活用する。 ○作品のできた児童の中から教師が選り共有する。
5	4. 国語日記を書く。	○今日の学習を振り返り、作った詩の工夫したところを書く。

（思）詩集用紙